

企業名： キューブシステム株式会社

レポート名： 統合報告書 2022

1. この会社が目指している将来の姿が理解できるか

キューブシステムは、昨今の目まぐるしく変化する社会情勢を成長の機会と捉え、DX対応を推進していくことを前提に、新中長期経営ビジョン「VISION2026」をスタートさせ、注力するビジネスモデルとしてデジタルビジネス、SI ビジネス、エンハンスビジネスの3つを定めている。その中で、会社のノウハウを結集した知的財産の開発・提供をし、顧客のニーズと需要にあったサービスの提供を目指し、これまでのビジネスモデルを拡大させていくという事業成長に必要な過程と目標を示している。また、今後の50年を見つめITの進化によるネットワークの拡大と、ネットワークが必要不可欠になることでネットワークの障害が社会に及ぼす影響の大きさを予測し、高品質かつ安定した技術サービスや顧客の要望を先取りしたサービスの提供といった社会における自らの役割を確実に想定している。これらを実現する指標として目標となる売上高や営業利益、ROEなどの数値を具体的に示し、過去の業績と照らし合わせた現実的な計画を示すことができている。会社が目指している将来の姿は十分に理解できるといえる。

2. この会社の現在の競争優位性が理解できるか

人的資本、知的資本、社会・関係資本、財務資本、自然資本、製造資本の6つの資本を企業の経営基盤と認識し、それぞれの項目を充実させることで事業の拡大を目指している。

人的資本においては、社員一人一人が多様なプロフェッショナル人材として成長し、技術力だけではない総合力のあるシステムエンジニアとして活躍することが強みであるとしている。事業に必要な人材イメージを独自の「キャリアフィールド」として設定し、人材育成プログラムを充実させるなど、人材育成に特に力を入れていることがわかる。

知的資本においては、研究開発を事業基盤の発展・整備に必要なこととして捉え、DX技術を活用した実証実験や他企業との連携を通して提供サービスに向上に取り組んでいる。コロナ禍による多様な働き方や仮想通貨など社会の最新の課題を積極的に取り組んでいる印象を受ける。

社会・関係資本においては、システムエンジニアが自ら顧客とコンタクトをとることを大切にし、強固な顧客基盤や信頼関係の構築を実現しているとある。金融業や流通業、運輸・通信業など多様な業種からの顧客を獲得し、プロジェクトの品質に関する評価では確実な成長が見受けられる。

財務資本においては、株主への利益還元を重視しつつ、売上高を伸ばし安定的な収益性を維持しているとある。配当金総額は伸びており、配当性向の具体的な目標数値も示されている。

ることから、株主への配慮ができていると言える。

自然資本においては、SDGsの取り組みなどの環境問題にも積極的に取り組んでいる。シナリオ分析を通して、気候変動でのリスクを低減しつつ事業拡大の戦略を探っており、好感と期待の持てる資本であると感じられる。

製造資本においては、顧客に高品質なサービスを提供できるようにその方針や管理体系を明確化し、品質管理のためのプラットフォームの開発に取り組むなど徹底した体制作りを行っていることがわかる。

以上のように自身の経営基盤の強みを十二分に分析しその発展に取り組んでいることから競争優位性を明確に伝えていると言える。

3. その競争優位性に持続性があるかどうか理解できるか

人材育成のために働く環境や人材育成プランの作成に力を入れていることから企業が最も大切な要素の一つとして挙げている人的資本に関しては、今後も安定してよい人材が獲得できると予想できる。社会の動向を常に解釈し続け、斬新かつ有用なアイデアを生み出す必要がある知的資本では、人材の成長とともに発展しやすい資本なのであるため、人材育成に力を入れていることから持続性はあると見てよいだろう。これまでに獲得してきた顧客層は強固であり、満足度も高いことから更なる顧客の獲得も想定できる。株主への利益還元もしっかりと行っていることから、社会・関係資本についても持続性があると言える。財務資本においても、売上高や利益率は過去5年間で着実に伸びており今後も伸びていくだろう。SDGsへの貢献を全面に押し出しており、それに関連した課題と取り組み内容を具体的に示しているため、これらの取り組みが継続的に実現できれば自然資本も維持できる。製造資本に関しても品質向上のための積極的な取り組みがなされていることから問題ないと言える。

4. この会社で自身の人的資本の価値向上を達成できると思うか

会社の事業が人的資本を中心に成り立っており、業績向上には社員の働き方改革が筆油であると認識すると同時に、社員のウェルビーイングが実感できるような企業体を目指していることなどから、社員一人一人に気を配り、社員の育成に力を入れている企業であることが読み取れる。サステナブル経営の項目の1つに人的資本を掲げ、人材育成プログラムにより多様なプロフェッショナル人材として成長することができ、総合力のあるシステムエンジニアになれるとある。人材育成にあたり段階的にスキルの獲得やプロジェクトの経験ができ、社外の資格取得やDX人材の育成推進もなされており、自身の人的資本の価値向上に適した環境が整っていると考えられる。

5. 報告書のよかった点はどこか、どのような改善余地があるか

企業としてサステナビリティ経営と事業戦略を強調して伝えたいということがわかるメ

リハリのついた理解しやすい報告書であったと思う。改善点としては、文章の結論や主張を副題のような位置づけで文章のトピックのすぐ下を書くなどすると、文章全体が言わんとしていることがはっきりするため、文章の流れをつかむことができより伝わる構成になるのではないかと感じた。